JA

体験しながら満喫しよう

マドリード州

スペイン

マドリード州の楽しみ方

マドリード州

マドリード州観光局

目的地：スペインの
マドリード州。

真っ青な空、晴れの日が多い温暖な気候、住民たちの陽気なライフスタイルが備わったマドリードは、眠らない街と言われています。スペインの首都マドリード市が世界屈指の活気溢れる都市であることは疑いようがありません。マドリード市のあるマドリード州は、文化や芸術が盛んなばかりでなく、山々や谷に点在する小さな市町村を抱える豊かな自然環境と、生産力の高い経済・ビジネスの中心が織りなすバイタリティに溢れています。その全てが、マドリード州を形成しています。

スペインの中心部を占めるマドリード州は交通の便が良く、イベリア半島の各地からわずか数時間でアクセスできます。また、ヨーロッパ諸国はもちろん、アメリカをはじめとする世界各国とも空路で結ばれています。

マドリード州は、発祥の頃から文化の中心として栄えてきました。さまざまな分野の芸術家たちが滞在し、あらゆる時代の優れた作品が集積していきました。今日ではマドリード市はもちろん、州内各地の文化施設にそれらの作品が収蔵されています。マドリード州は世界的に有名な人物たちを多数、輩出してきました。セルバンテスやロペ・デ・ベガ、カルデロン・デ・ラ・バルカ、ケベド、オルテガ・イ・ガセット、マラニョン、チュエカ…現在でもスポーツや科学、グルメ、ファッション、文化の巨匠たちの活躍の場となっています。

マドリード州はその魅力を知りたいと望むあらゆる人々を両手を広げてお待ちしています。文化やグルメ、ビジネス、娯楽、エンターテインメントが一点に集中したマドリード州の観光オファーは、世界トップクラスの多彩で充実したものに数えられています。

リンコン生物圏保護区。北部山脈

チンチョンのマヨール広場

文化と歴史

マドリード州は、輝かしい過去と現在の重要性を反映する珠玉の歴史的・芸術的遺産を、訪れる人々に惜しむことなく披露してくれます。マドリード市が秘蔵する文化的・歴史的・芸術的な豊かさのほか、都心からほんのわずかの距離に文化や自然の魅力が溢れているのもマドリード州の大きな特長です。

総合インフォメーション

ミュージアム＆画廊

マドリードはさまざまな国々の芸術家たちの集う出会いの場所、特に大西洋を挟んだ向かい側の中南米出身の芸術家たちとの、懸け橋的存在を果たしています。マドリード州の優れたミュージアムや盛んな文化活動は、ヨーロッパの最前線に位置づけられています。

世界有数の３つの美術館が集まるマドリード市中心部の「Paseo del Arte（美術館通り）」は、地上にある芸術作品の集中地帯と言われています。プラド美術館、ソフィア王妃芸術センター、ティッセン・ボルネミッサ美術館が軒を連ねるそばには、国立考古学博物館もあります。

中世から19世紀までのヨーロッパの重要な絵画作品が収蔵されたプラド美術館では、ゴヤやベラスケス、ルーベンス、ボッシュ、エル・グレコなどを始めとする巨匠たちの有名な作品の数々を見学することができます。ソフィア王妃芸術センターには、ピカソのゲルニカを筆頭に、近代美術の重要コレクションが並んでいます。一方、ティッセン・ボルネミッサ美術館には、13世紀から20世紀までの作品をメインに、千点近くの美術作品を収蔵。

国立考古学博物館は、先史時代から近代までのスペインの代表的な考古学コレクションの宝庫です。常設展の秘宝の数々に加え、企画展も非常に充実しています。

マドリード州全域に散りばめられた１００を超える各種のミュージアム、１５０軒あまりの画廊や展示ホールで形成されるミュージアムのオファーは、写真や絵画、彫刻やインスタレーションなど、各種の分野の芸術作品が満載です。

シルクロ・デ・ベリャス・アルテス、カサ・エンセンディダ、コンデ・ドゥケ文化センター、カイシャフォーラム、マタデロ・マドリード、カサ・デ・アメリカなどのミュージアムや展示ホールも必見の場所で、いずれもマドリード州の文化の活性化を支えています。また、マドリード本の見本市、現代美術国際見本市(ARCO)、PHoto-Españaなどの見本市の期間中、マドリード州にはスペイン国内外から注目が集まります。

マドリード州のミュージアムの重要性は、La Noche de los Museos(ミュージアム・ナイト)と呼ばれるイベントからもうかがわれます。この日、マドリードの主要なミュージアムは開館時間を延長し、この日限定のガイドツアーやカンファレンス、ワークショップを始めとするさまざまなアクティビティを開催します。

舞台芸術

マドリード州が世界的に有名な理由のひとつには、２００を超えるシアターを抱え、要求の高い観客を満足させる充実した文化的オファーも挙げられます。マドリード市やその他の市町村にある規模のさまざまな舞台では、年間を通して演劇やコンサート、ダンスの優れた演目が上演され、一流の監督や指揮者、振付師たちが観客を夢の世界へとご案内します。カナル劇場やアバディア劇場、アルカラ・デ・エナーレスのコラル・デ・コメディアス劇場、サン・ロレンソ・デ・エル・エスコリアルのカルロス3世王立大劇場などがその好例に挙げられます。

重要なフェスティバルが多数開催されるマドリード州は、州の文化活動の国際アンバサダーとして貢献しています。国際的な舞台芸術の優れた作品が上演される秋から春のフェスティバル、有名なアーチストや舞踊団が頻繁に登場するマドリード国際ダンスフェスティバル、青少年舞台芸術国際フェスティバルのテアトラリア、古典劇の真髄と言われるアルカラのフェスティバル・クラシコス、小規模な独立系シアターでの創作を支援するスルヘ・マドリード、あるいはマドリード州をフラメンコのメッカに仕立て上げるスマ・フラメンカなどはそのほんの一部に当たります。古典演劇から前衛作品まで、クラシックダンスからコンテンポラリーダンスまで、そしてありとあらゆるジャンルの音楽まで含むオファーは、まさに多岐に及びます。

さらに、国際演劇デーに因んで開催される充実感たっぷりのイベント「La Noche de los Teatros(シアター・ナイト)」では、マドリード州の数多くのシアターが、演劇やダンス、人形芝居、ミュージカルを始めとするアクティビティを通じて、バラエティに富んだ舞台芸術の豊かさを惜しげもなく披露してくれます。

音楽

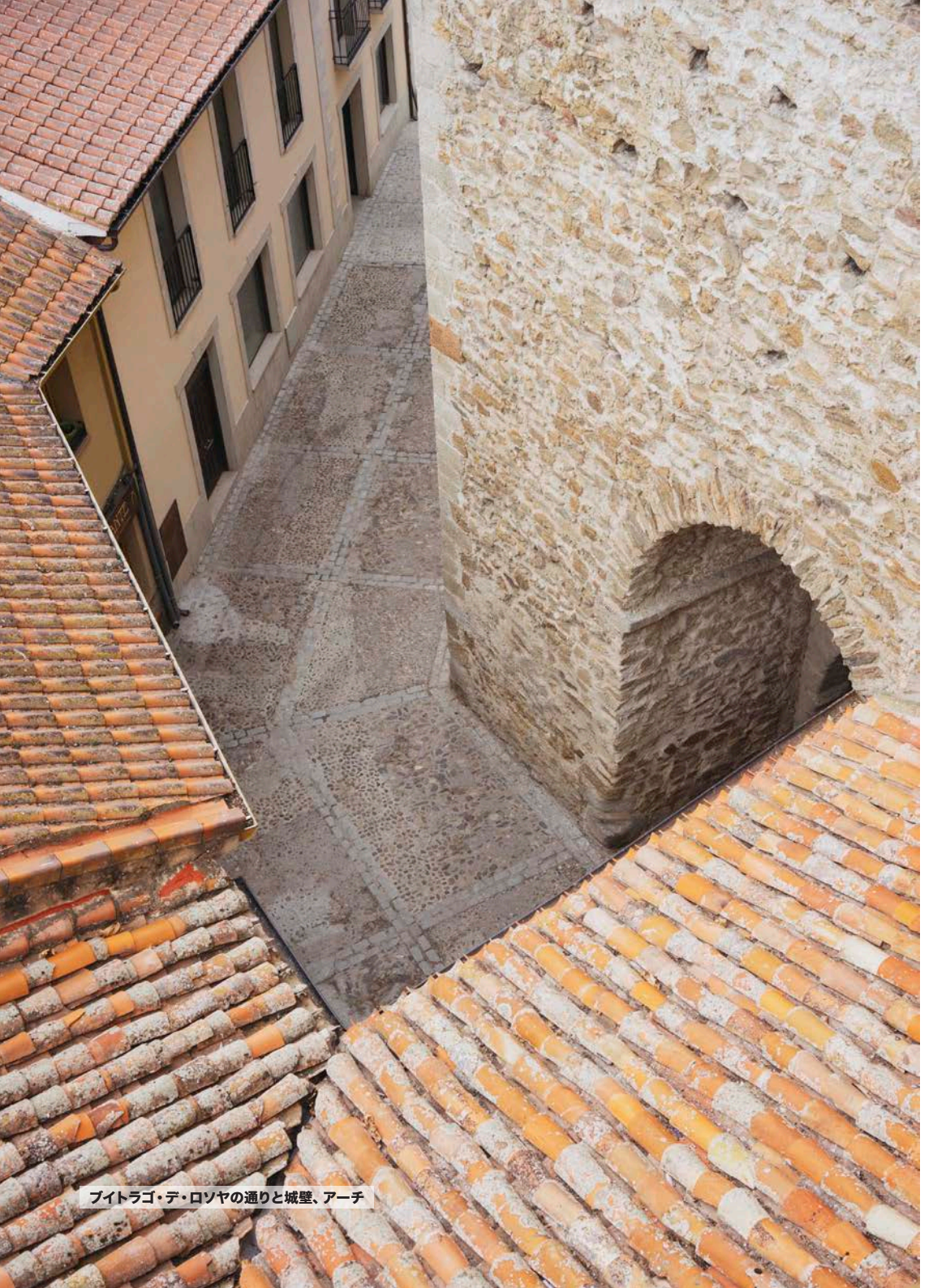
音楽愛好家の皆様には、あらゆる嗜好を満たす幅広いオファーが用意されており、年間を通して優れた演奏を楽しむことができます。マドリード州には世界に誇るクラシック音楽の演奏会場が３つもあります。世界的に有名なオペラ作品を上演する王立劇場、スペイン特有の歌劇サルスエラの上演の目的で世界で唯一設立されたサルスエラ劇場。ここではサルスエラに加え、コンサートの素晴らしいプログラムも併せて提供しています。そして宗教音楽の殿堂とされる国立音楽堂では、シンフォニーホールと室内楽ホールの２つのホールで、類まれな演奏を披露しています。

ダイナミックなマドリード州では、２月から３月に掛けて開催される国際宗教芸術フェスティバルなど、規模の大きなフェスティバルも目白押しです。クラシック、ジャズ、フォーク、ロック、エレクトロニックなど多岐に渡る音楽ジャンルが一堂に会し、ありとあらゆるフュージョンを繰り広げながら演奏されます。音楽愛好家にとって見逃せないもうひとつのイベントに、アランフェスの王宮と庭園という美しい環境で開催されるアランフェス古典音楽フェスティバルがあります。夏の訪れとともに開幕する夏のクラシックフェスティバルでは、１００あまりのコンサートがマンサナーレス・エル・レアル城を始めとするマドリード珠玉のモニュメントの中で開催されます。また、サン・ロレンソ・デ・エル・エスコリアル・サマーフェスティバルは、マドリード山岳地帯の代表的フェスティバルです。

さらに、ライブホールのネットワークが充実しているマドリード州では、Galapajazz、JazzMadridなどのフェスティバルのほか、Mad Cool、Tomavistas、DCODE、Festimadなど、インディーズ音楽のコンサートの開催も定着してきました。

ところで、「マドリードのブロードウェイ」をご存知でしょうか？100年の歴史を誇るグランビア通りは、夜のとばりが降りると共にシアターやナイトクラブのライトがまぶしく灯ります。最新ミュージカルや音楽の豪華イベント満載のマドリードの夜をたっぷり満喫しようと詰めかける観客で、歩道はいっぱいになります。

活気に満ちたナイトライフというもうひとつの顔に対する期待が、マドリードで裏切られることはありません。マドリード州のどの地区や都市にもバーやクラブはたくさんあり、皆様のお越しをお待ちしています。



ブイトラゴ・デ・ロソヤの通りと城壁、アーチ

通りや広場

マドリードは世界有数の活き活きとした大都会です。にぎやかな道をあてもなくさまよい、大通りやカフェテラスをじっくり味わうだけで、この街のバイタリティを感じとることができます。幅広い文化的オファーに加え、質の高い豊かな食文化とナイトライフを併せ持つマドリードは、ヨーロッパ屈指の陽気な街と評判です。

マドリード市の動脈と呼ばれるカステリャーナ通りとグランビア通り。この２本の通りには、シベーレスとネプチューンの噴水のほか、スペイン銀行やカサ・デ・アメリカ、市役所の新本庁といった20世紀初頭の建造物や宮殿と共に、テラスカフェやオフィスタワー、シアター、レストラン、ホテルが建ち並んでいます。

また、街角のひとつひとつにスペインの歴史のひとかけらを見出しながら、旧市街の通りや広場を散策するのも大きな楽しみのひとつです。プエルタ・デル・ソルと王宮の間のハプスブルク王朝時代のマドリードと呼ばれる地区（Madrid de los Austrias）には、王立ラス・デスカルサス修道院やエンカルナシオン修道院などの建造物が建ち並んでいます。一方、ブルボン王朝時代のマドリード（Madrid de los Borbones）を代表する建物は何といっても王宮です。これらの地区に潜む魅力の発見に最適なのが、徒歩によるガイド付きツアーです。

一方、歩行者天国のウエルタス通りとサンタ・アナ広場の周辺には、文芸地区（Barrio de las Letras）と呼ばれる地区があります。ここにはかつて、ミゲル・デ・セルバンテス、ケベド、ゴンゴラ、ロペ・デ・ベガといったスペインの黄金世紀を代表する文豪たちが住んでいました。また、この地区には、マドリード最初のコラレス・デ・コメディアス劇場が設けられたり、ドン・キホーテ前編の初版（1604年）を手掛けたフアン・デ・ラ・クエスタ出版所などもありました。セルバンテスが埋葬されているサン・イルデフォンソ・デ・ラス・トリニタリアス・デスカルサス修道院も、現在までその姿を留めています。

マドリードの人々の間に文学の重要性が脈々と受け継がれていることは、La Noche de los Libros（ブックス・ナイト）と呼ばれるイベントからもうかがわれます。このイベントでは、作家たちとの談話会やワークショップ、リーディング、討論会、サイン会など数多くの文芸アクティビティがマドリード州全域で開催され、読者たちは自由に参加することができます。

落ち着いた雰囲気を楽しみたい方には、レティーロ公園や王立植物園、ネオクラシック様式のエル・カプリチョ公園のほか、最新の縦に長く伸びた公園、マドリード・リオなど、公園や庭園もたくさんあります。

マドリードの世界遺産

ユネスコ認定の4つの場所

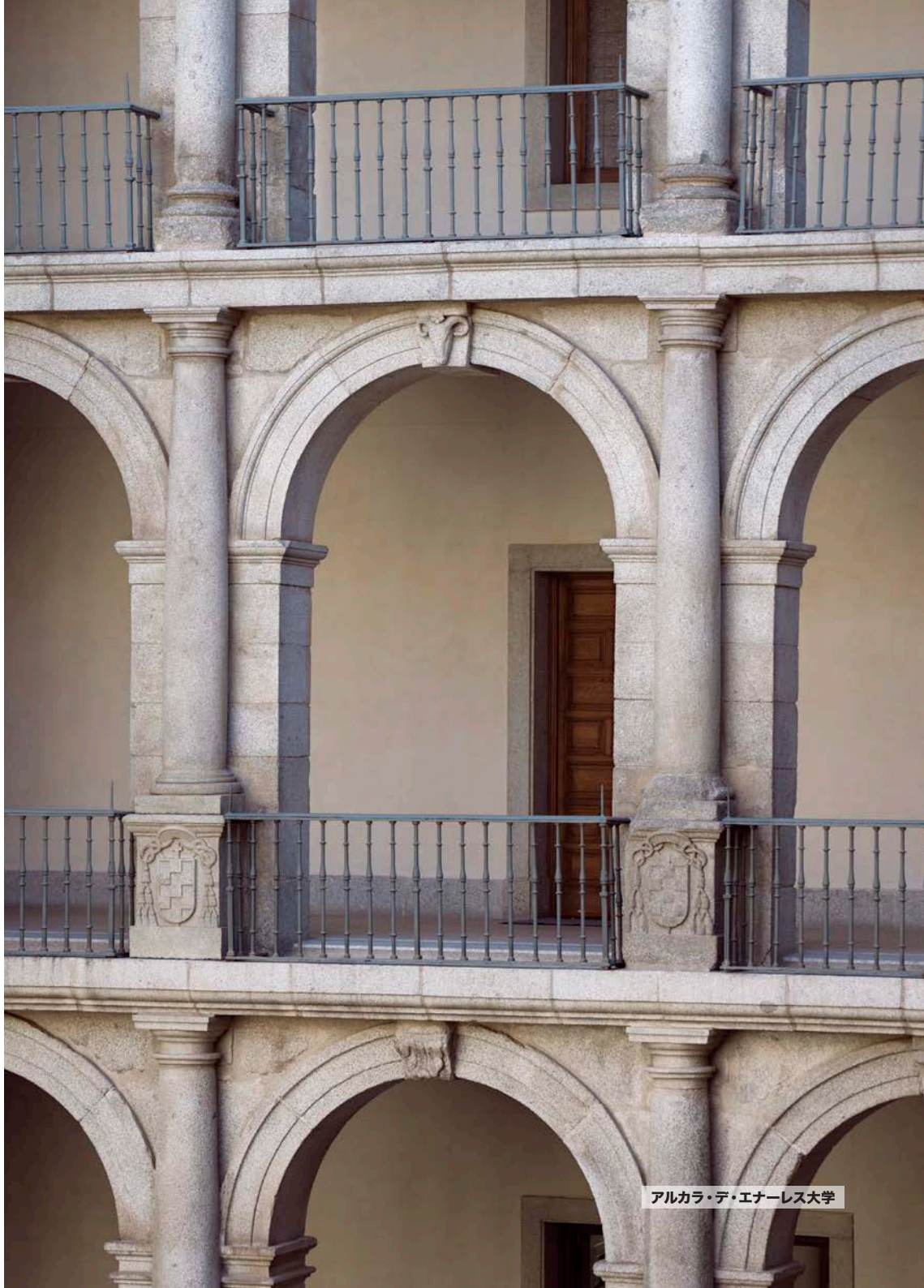
マドリード市の近郊３都市の歴史的−芸術的遺産は、ユネスコの世界遺産リストに登録されています。アルカラ・デ・エナーレス、サン・ロレンソ・デ・エル・エスコリアル、アランフェスの３都市がそれに当たり、「マドリードの世界遺産」という名のもとにまとめることができます。これらに加え、モンテホのブナ林も最近、ユネスコの自然遺産の認定を受けました。

アルカラ・デ・エナーレス

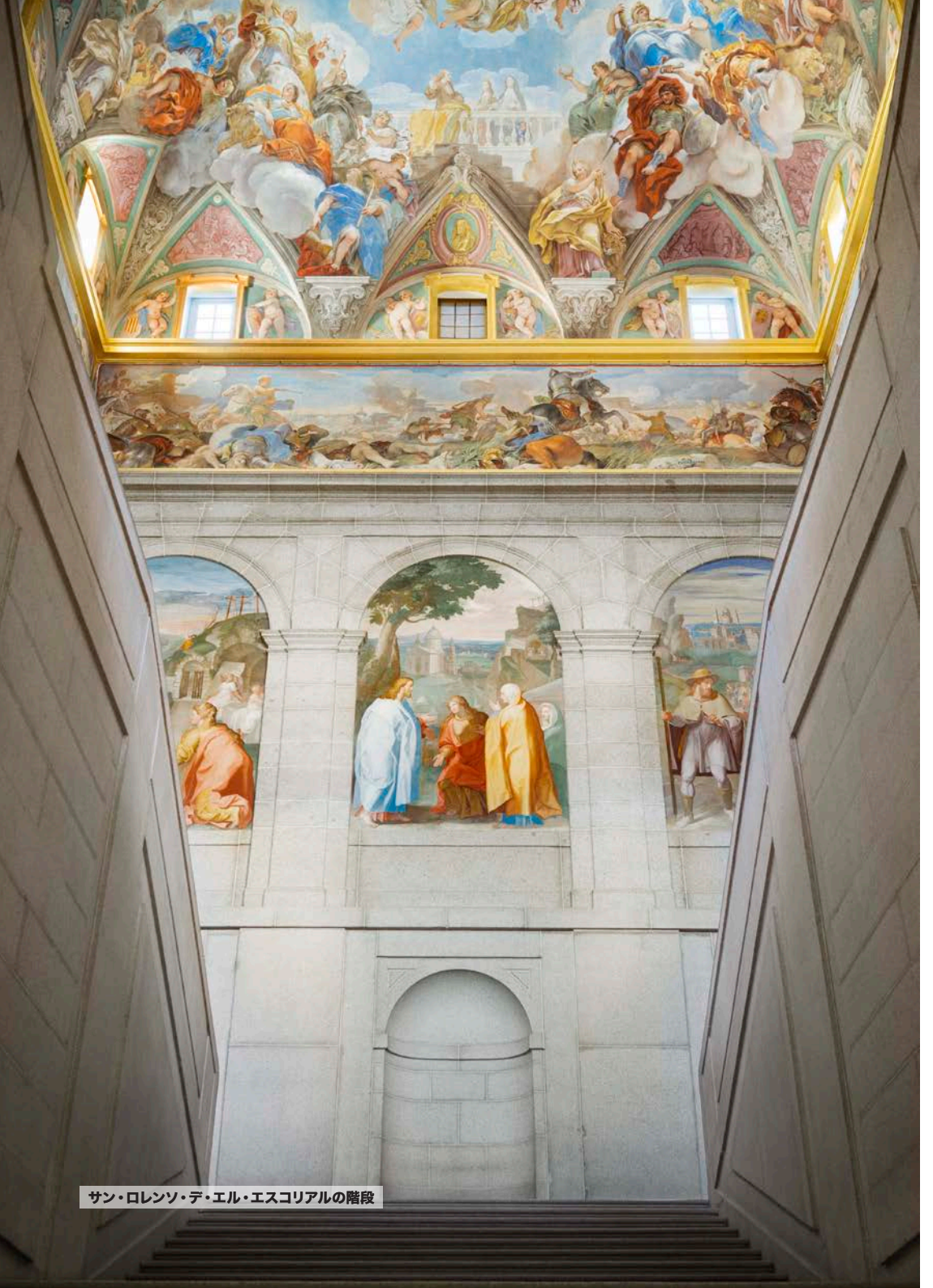
世界に名だたる文豪ミゲル・デ・セルバンテス・サアベドラの出生地であるアルカラ・デ・エナーレスは、1998年から世界遺産に登録されています。その豊かな歴史 - 史跡遺産はもちろんですが、世界初の計画的大学都市であったこと、1499年、シスネロス枢機卿が後のコンプルテンセ大学を設立して以来の文化的影響、そしてそれが欧州の他の大学のモデルとなり、スペインの宣教師たちによってアメリカにもたらされたことなどが高く評価されました。

現在も文学と文化と深い関係を保ち続けるアルカラ・デ・エナーレスでは、スペイン語圏のノーベル文学賞と呼ばれるセルバンテス賞の授賞式が、毎年4月23日、アルカラ大学の講堂で行われています。サン・イルデフォンソ学院は、ぜひ見学に訪れていただきたいおすすめの場所です。旧大学のファサード、ムデハル様式の格天井が見事なアウラ・マグナ、三ヵ国語の中庭などが見どころです。その他の観光スポットには、セルバンテスの生家、大聖堂教会、大司教館、コラル・デ・コメディアス劇場、サン・ベルナルド修道院、地方考古学博物館などが挙げられます。

アルカラ・デ・エナーレスはまた、通りや広場をのんびり散策したり、タパス食べ歩きや格別なレストランでのお食事を楽しんだり、カフェテラスでのおしゃべりやショッピング、パティスリーや修道院で特産のスイーツをおみやげに購入したり、そんな時間を楽しむのにぴったりの場所です。また、春から秋にかけてはセルバンテス列車でアルカラ入りすることも可能です。マドリードのアトーチャ駅からアルカラ駅を運行するこの列車の中では、セルバンテスの時代に因んだアトラクションが演じられます。



アルカラ・デ・エナーレス大学



サン・ロレンソ・デ・エル・エスコリアルの階段

サン・ロレンソ・デ・エル・エスコリアル

1984年、ユネスコの世界遺産に登録された王立サン・ロレンソ・デ・エル・エスコリアル修道院はグアダラマ山脈の中心を占め、エレリアの森林やアバントスの松林など、ハイキング愛好家たちにとって魅力的な、自然に恵まれた場所にあります。

エレラ様式の巨大な複合建築施設の修道院は、質素な外観と豪華な装飾がふんだんにほどこされた内装が特徴です。フェリーペ2世国王の命でわずか20年間で完成し、ハプスブルク王朝時代の宮殿別館やブルボン王朝時代の宮殿別館、図書館、バシリカ式教会、国王の中庭、王家の霊廟、修道士の庭園など、歴史的・芸術的・文化的価値の高い空間が目白押しに並んでいます。壁にはティバルディ、ズッカロ、ルカ・カンビアッソ、ルカス・ジョルダーノなどの手による貴重なフレスコ画はもちろん、「唖の」ナバレーテ、クラウディオ・コエーリョ、ボッシュ、ティツィアーノ、エル・グレコ、ロヒール・ファン・デル・ウェイデン、デューラーなどの巨匠たちの名画を目にすることができます。チェッリーニの白いキリスト像、レオーニの作品群、フアン・バウティスタ・モンネグロ作の旧約聖書の王たちなど、彫刻作品も忘れてはなりません。

サン・ロレンソ・デ・エル・エスコリアル修道院は、ヨーロッパのカトリック諸国の芸術家たちが集う工房と化し、第一級の文化の中心地として、時の国王たちと共に今日に至るまで、その絢爛さを増していきました。

歴史的 - 芸術的史跡の通りや広場を散策し、16世紀や18世の堂々とした建造物を愛でたり、フェリーペ2世がそこから修道院を眺めたと言われる「フェリーペ2世の椅子」へのエクスカーション、この街が提供する文化と食文化のさまざまなオファーで身と心を潤すことなしに、エル・エスコリアルの観光を終えることはできません。地理的表示保護を有するグアダラマ山脈の肉や山の伝統料理、タパスに舌鼓を打つのも旅の楽しみのひとつです。

2017年の夏からはフェリーペ2世列車が開通し、マドリードとエル・エスコリアルの間を運行しています。サン・ロレンソ・デ・エル・エスコリアルのさまざまな歴史スポットを巡るガイド付きツアーと組み合わせてご利用いただけます。

アランフェス

ブルボン王朝によって春の離宮の建設地として選ばれたのが、タホ川のほとりのアランフェスでした。王宮群の管理を司る場所となったため、君主に従う宮廷も例年行動を共にし、春の間はアランフェスに滞在していました。王宮と旧市街はもちろん、庭園や並木道、菜園などで形成されたアランフェスの街の自然景観は、ユネスコの世界遺産リストに「文化的景観」として登録されています。

王宮と王家の小舟博物館、農夫の家を見学せずにアランフェスを立ち去ることはできません。また、歴史的 - 芸術的史跡に指定されている旧市街も一見の価値があり、闘牛場やアバストス市場が特に見ごたえがあります。市場周辺には、郷土料理を味わえる場所もたくさんあります。

アランフェスの庭園も必見のスポットです。当時最も美しいと称えられた庭園は、どの季節に訪れても美しく、作曲家のホアキン・ロドリーゴや画家のサンティアゴ・ルシニョールなど、芸術家たちのインスピレーションの源となり、今日でも訪れる人々の目を楽しませてくれます。王宮を取り巻く歴史の古い庭園はそれぞれ様式が異なり、一年の各季節が象徴されています。また、建設を命じた君主の嗜好が如実に反映されています。

忘れられない体験をお望みなら、イチゴ列車でアランフェス入りを果たしてみてください。春から秋の週末、マドリードからアランフェスを運行しています。さらに、古い時代を偲びながらアランフェスを観光したい方は、旧市街や並木道、菜園などを四輪馬車で巡ってみてはいかがでしょうか。アランフェスの歴史の古い菜園で採れる野菜や果物は、かつては宮廷の食卓に上るものでした。現在でも名産のアスパラガスやイチゴ、メロンなどを地元のレストランで味わうことができます。

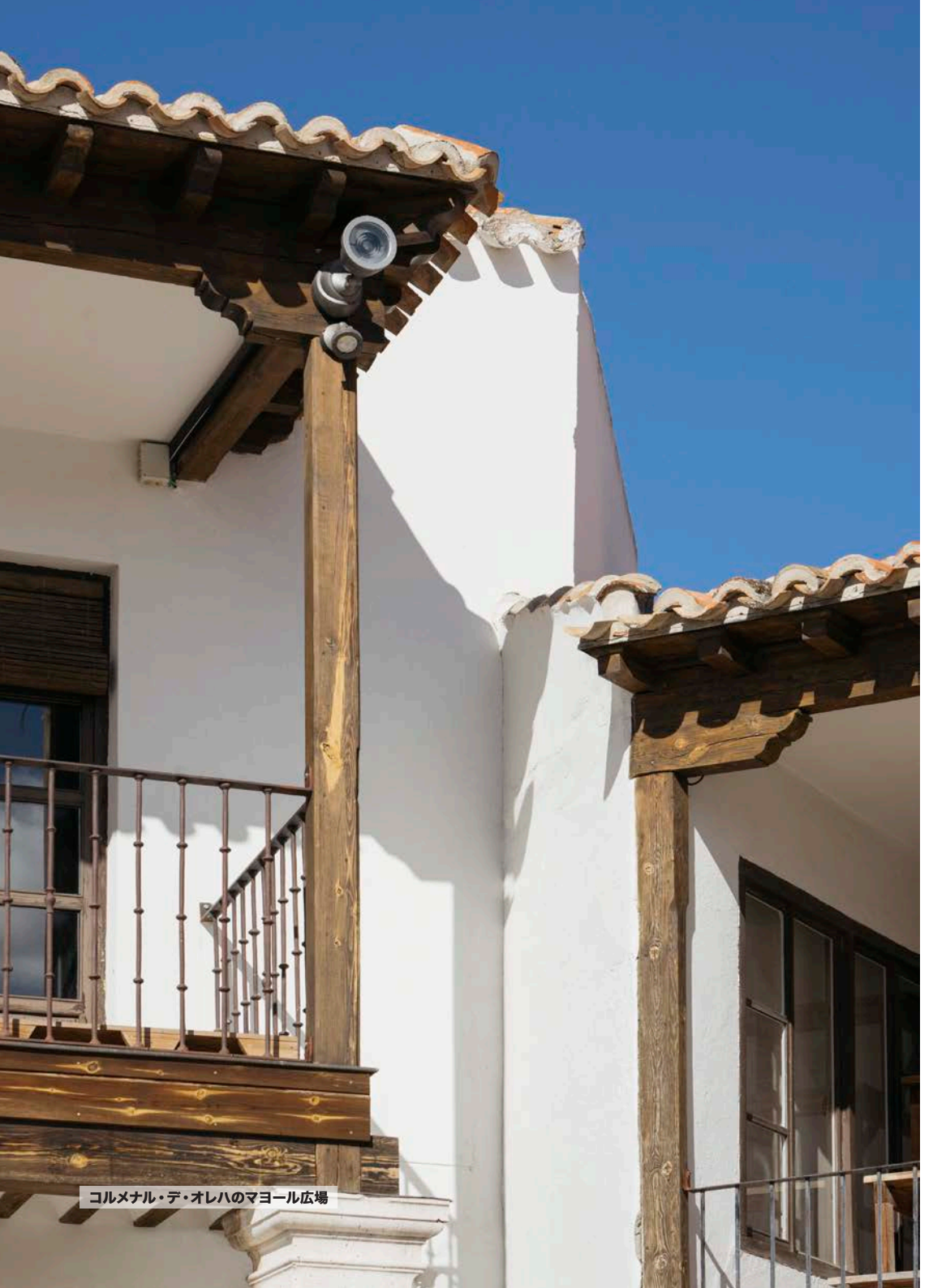
モンテホのブナ林

ブナ林に最適とは言えない環境にうっそうと生い茂るモンテホのブナ林は、マドリード州で最も見ごたえのある森林のひとつです。リンコン山脈生物圏保護区にあるモンテホ・デ・ラ・シエラの町、マドリード州北部のハラマ川のほとりを占める欧州最南端のブナ林です。250ヘクタールのブナ林の中には、ブナの木に混じってカシの木やトルコガシ、セイヨウヒイラギの木々も目にすることができます。

2017年の夏、世界自然遺産に登録されたこのブナ林は、過去40年以上に渡って大切に保護されてきました。その保護のため、見学者数に制限があり、見学申込みは電話やインターネットで受け付けています。数に限りはありますが、当日券も先着順で入手可能です。ガイド付きで行われる無料見学ツアーには、100年以上のブナの木はもちろん、環境に関する興味深い発見がたくさん散りばめられています。

どの季節に訪れても一見の価値ある場所ですが、葉っぱがオークルやオレンジ色、赤味がかった色や金色に輝くうっとりするような秋の魅力に勝るものはありません。

詳細情報とご予約：
www.sierradelrincon.org



コルメナル・デ・オレハのマヨール広場

マドリード州の小村

- マンサナーレス・エル・レアル
- ラスカフリア
- パトーネス
- トーレラグーナ
- ブイトラゴ・デ・ロソヤ
- ヌエボ・バスタン
- ビジャレホ・デ・サルバネス
- コルメナル・デ・オレハ
- チンチョン
- ナバルカルネロ
- サン・マルティン・デ・バルデイグレシアス

マドリード州には大都市のすぐ近くに、農村や静かな町、食べ物がおいしい自然溢れる場所、いわばマドリードの秘境がいくつも存在します。

マドリードの村落に深く足を踏み入れてみると、高い評価を誇る文化的遺産を有しながらも田舎らしさをしっかり守り、クオリティと訪れる人々の満足度を保証するための適切な観光インフラを整えた、類まれな集落群を見出すことができます。

マドリード州は、グアダラマ山脈とその間を流れるロソヤ、マンサナーレス、エナーレス、ハラマ、タフーニャの河川と、山々と谷のコントラストなくして語ることはできません。高い山脈から平野部、山頂付近で雪をかぶったモミの木やアルカリアのカシの木など、バラエティに富んだ景観が特徴です。その魅力をここにご紹介していきます。

マンサナーレス・エル・レアル
おとぎ話のお城

マンサナーレス・エル・レアル城を眺めると、幼い頃に読んだ魔法を掛けられた王女たちのおとぎ話が思い出されます。マドリード州で最も保存状態の優れたこの城の内部は博物館となって公開されています。見学しながら、中世とルネサンス期の世界をごゆっくりお楽しみください。マンサナーレス・エル・レアルには、その他にも森林やサンティリャーナ貯水池、「魔」の山と呼ばれるラ・ペドリサ山があり、マドリード州の自然の宝玉のひとつ、グアダラマ山脈国立公園の一部を占めています。マンサナーレス川は、この地方を澄み切った水で潤しながら、マドリード市の奥深くへと流れていきます。

ラスカフリア
山と信仰と芸術

グアダラマ山脈のふもとのロソヤ渓谷で最も美しい場所にあるのがラスカフリアです。14世紀、ペニャララの山並みと湖から近いこの土地に、エンリケ2世がサンタ・マリア・デル・パウラール修道院の建設を決意しました。修道院芸術の傑作と呼ばれる修道院には、ビセンテ・カルドゥチョの見事な絵画コレクションがあり、プラド美術館より寄贈された原画56枚のうち52枚を鑑賞することができます。秋になると、山間部のこの町のレストランメニューにはジビエときのこが主役として登場します。ロソヤ川の新鮮な水を満喫しながらの散策や、雪をかぶった山頂でのスキーもお楽しみいただけます。

パトーネス
ロマンチックな逃避行

パトーネス・デ・アリーバ（上パトーネス）は、その景観と粘板岩の珍しい建築が魅力的な秘境のひとつです。村の通り全体がまさにひとつの屋外ミュージアムを構成し、親密でロマンチックな田舎風レストランでは、たぐいまれなお料理をお楽しみいただけます。村に数軒あるホテルは「ルーラル・チック」と呼ばれるプロジェクトに参画。上と下の２つのパトーネスの境に横たわるエル・バランコのエコロジー・ロードが非の打ちどころのない付加価値となり、この町の観光を忘れがたい体験にしてくれています。

トーレラグーナ
著名なマドリード人たちの出生地

トーレラグーナの旧市街は、シスネロス枢機卿やラ・カベサの聖女マリアなど著名人の出生地であるとともに、聖農夫イシドロも住んでいた歴史に縁の深い場所です。シスネロス枢機卿はこの町を拡大するための費用を惜しまず、マドリード風ゴシック建築の優れた一例であるサンタ・マリア・マグダレーナ教区教会、公営穀物倉庫、旧聖三位一体病院、マードレ・デ・ディオス・フランシスコ会修道院などを次々と建設しました。

町の景観は見事としか言いようがなく、トーレラグーナはその後数世紀を経て、映画の撮影場所として人気を博しました。例えば「誇りと情熱」の撮影では、ソフィア・ローレン、ケーリー・グラント、フランク・シナトラを始めとする俳優たちがこの町並みの美しさに直接触れることができました。

ブイトラゴ・デ・ロソヤ
過去から前衛へ

ブイトラゴ・デ・ロソヤの町を散策すると、中世時代に迷い込んだ気分を味わうことができます。そこでは、ロソヤ川のゆったりした流れや古城、見事な城壁に囲まれた町並みが風景とひとつに溶け合っています。日の光をたくさん浴びた景観の美しさはもちろんですが、雪化粧がほどこされたこの秘境の美しさもまた格別です。町角のひとつにあるピカソ美術館–エウヘニオ・アリアス・コレクションでは、鬼才ピカソが彼の理髪師に遺贈した作品60点余りが展示されています。

クリスマスになると、ブイトラゴの町は2千年ほど前に時間が遡り、キリスト降誕の再現の舞台となります。州の無形観光文化財に指定されているこのお祭りでは、地元の人々が中心となって、800メートルの城壁で降誕の再現が演じられます。

ヌエボ・バスタン
マドリード州の啓蒙主義の村

18世紀初頭、フアン・デ・ゴジェネチェ・イ・ガストンという、ナバラ出身マドリード在住の政治家が、この土地に工場や工房のための用地と職人たちの住まいの建設を決意しました。こうして誕生したのがヌエボ・バスタンです。啓蒙主義に基づいた唯一の村であり、チュリゲラの設計による見事な建造物が並んでいます。ビジターセンターでは、スペインに変化をもたらすことを夢見た啓蒙主義者の熱意より誕生した村の由来と、その発展の様子を学ぶことができます。

ビジャレホ・デ・サルバネス
映画と修道士と騎士の町

その堂々とした主塔から、カスティーリャの大エンコミエンダの首都であったビジャレホ・デ・サルバネスの城の壮大さと規模がうかがえます。この城は、イスラム教徒のかつての監視塔の跡地に建築されたと考えられています。サンティアゴ騎士団の南メセタへのアクセスを管理する重要拠点となりました。カサ・デ・ラ・テルシアや主塔の内部に設置されたビジターセンターを見学すると、そのような史実や歴史の重要性を解き明かしていくことができます。主塔からはマドリード高原の見事な眺めはもちろん、オリーブやカシの木、タホ川、タフーニャ川の流れに彩られた見事な風景を楽しむことができます。

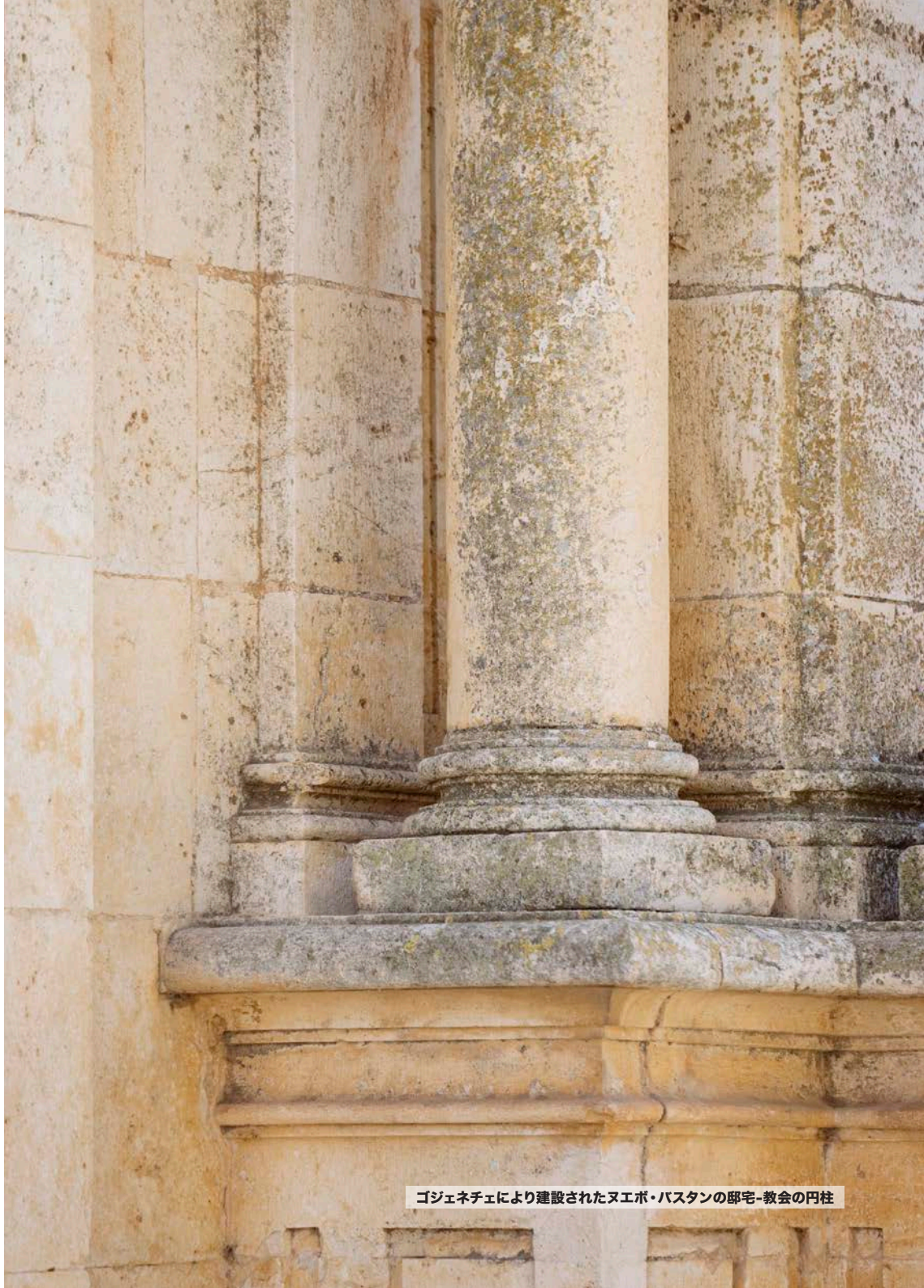
コルメナル・デ・オレハ
ワインと芸術

コルメナル・デ・オレハにあるウルピアノ・チェカ美術館では、ベン・ハーやクォ・ヴァディスなどの映画の舞台背景にインスピレーションを与えた絵画に出会えます。これは、マヨール広場などの建造物が素晴らしい、この小さな村を訪れる口実にぴったりではないでしょうか。「パタタス・チュラス」と呼ばれる郷土料理を、ビーノス・デ・マドリードの原産地呼称のワインといっしょにお召し上がりいただくこともできます。特産のワインは、この村に100年以上前からあるワイナリー見学でも味わうことができます。野原やブドウ畑の風景を楽しむながら、チンチョンとコルメナル・デ・オレハの間をサイクリングで巡るのも、貴重な体験となるに違いありません。

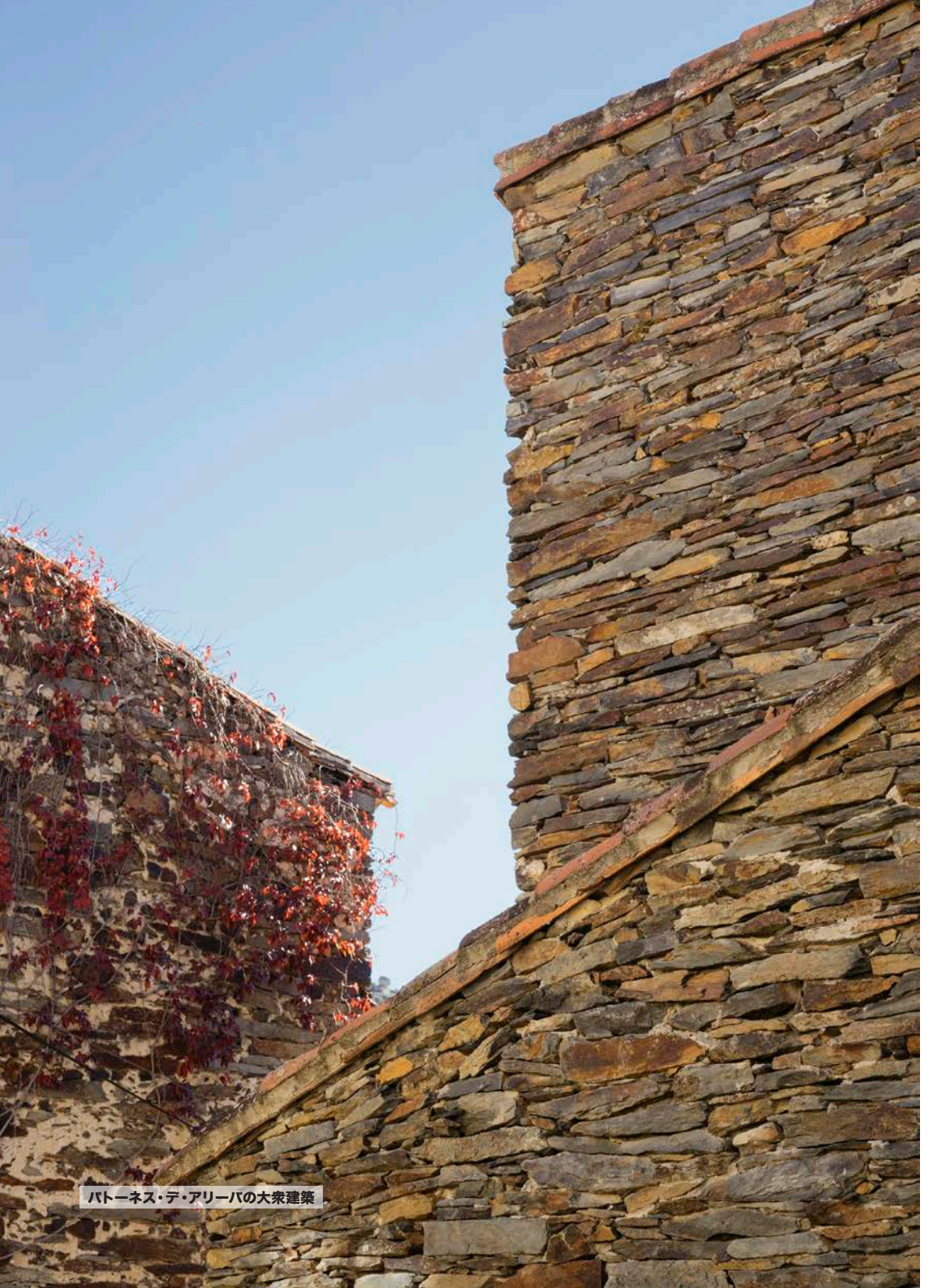
チンチョン
映画の舞台

オーソン・ウェルズ、リタ・ヘイワース、ジョン・ウェイン、カンティンフラス…いずれも映画の撮影中にチンチョンの魅力に直接触れることができた有名俳優たちです。チンチョンのマヨール広場は間違いなく、スペインに数あるマヨール広場の中でも最も有名なものです。時が止まった錯覚を抱かせる、カスティーリャ地方の大衆建築の好例のひとつです。マドリード州随一のグルメ料理やホテルのオファーが目白押しのチンチョンは、歴史の古い通りをあてもなくさまよいたい気分にさせてくれます。チンチョンの古城からは町の素晴らしいパノラマを一望に見渡せます。

聖土曜日の日が暮れると、チンチョンはエルサレムに様変わりし、200名を超える地元の住民たちがキリスト受難の再現に参加します。このライトとサウンドのお祭りは、国の無形観光文化財に指定されています。



ゴジェネチェにより建設されたヌエボ・バスタンの邸宅-教会の円柱



パトーネス・デ・アリーバの大衆建築

ナバルカルネロ

ワイン片手に一休み

小高い丘や小山、ブドウ畑に囲まれたマドリード州のワイン醸造の中心地、グアダラマ川とアルベルチェ川の流れる場所にあるのがナバルカルネロです。古い歴史と落ち着いた雰囲気に驚くセゴビア広場は、ビーノス・デ・マドリードの原産地呼称ワインをゆったり味わうのにぴったり。おいしさには定評あるナバルカルネロのワインは、独自の博物館はもちろん、ジャズフェスティバルのほか、テイスティングの道まで備えています。ワインセラーでワインと一緒に「刈り取り人夫の煮込み料理(olla del segador)」と呼ばれる郷土料理を味わえば、申し分のない旅となるでしょう。中世の色濃い狭い路地や広場の数々を訪れ、トリックアートの楽しい建物や豊かな自然を愛でることもお忘れなく。思う存分くつろいでお過ごしください。

サン・マルティン・デ・バルデイグレシアス

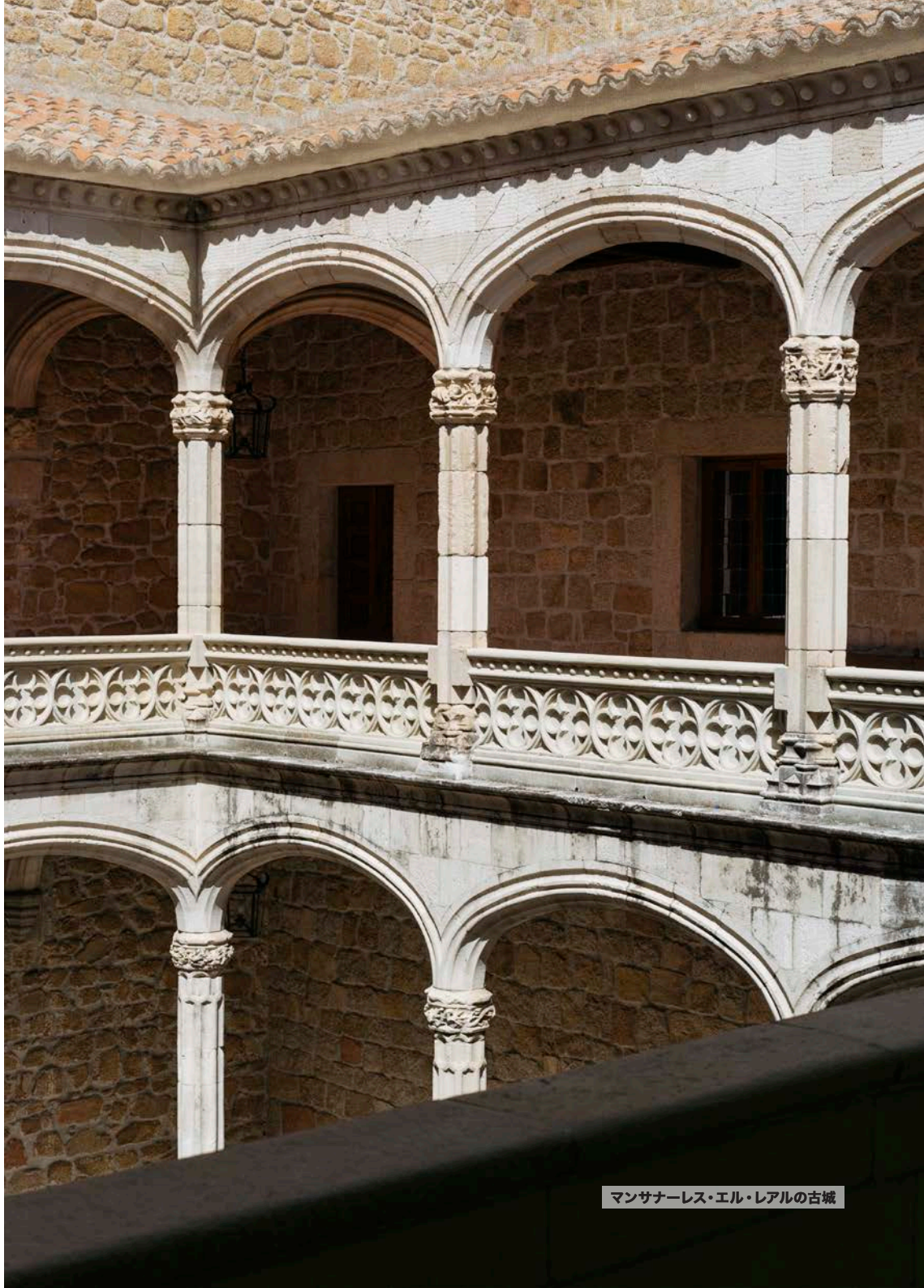
ワインと湖と歴史

サン・マルティン・デ・バルデイグレシアスは、マドリード西部山脈随一のワイン醸造地です。この土地のワインは、ガルナチャ（赤）とアルビリョ・レアル（白）という品質の高いブドウ品種で作られ、ビーノス・デ・マドリードの原産地呼称の中に独自の副呼称を有しています。エノツーリズムの愛好家たちは見事な景観とコラセラ城を始めとする史跡を巡りつつ、思う存分お楽しみいただけます。城の主塔からはグレドス山脈の山々やマドリード西部山脈に広がる森林などを臨むことができます。でも、それだけではありません。サン・フアンとデ・ピカダスの貯水湖はマドリードの人々のお気に入りの湖。夏の間はもちろん、一年を通して、スポーツやアクティビティを満喫することができます。

マドリード州の古城群

マドリード州の古城群には、過去の輝かしい歴史が反映されています。マドリード州には、歴史の遺産や芸術、自然の豊かさが調和した古城や城壁の重要遺物が数多く残されています。その中でもマンサナーレス・エル・レアルにある、メンドーサ家の城-要塞が一際目立っています。この城はマドリード州のみならず、スペイン全土でも最も保存状態の優れた城に挙げられます。15世紀半ばにイサベル様式で（スペイン後期ゴシック様式）建てられたこの城は、カスティーリャ軍事要塞建築の見本のひとつです。城の塔からは、サンティリャーナ貯水池やグアダラマ山脈の素晴らしい眺めをお楽しみいただけます。城内の見学では、過去に迷い込んだような気分を味わえます。また、ドラマスタイルのガイド付き見学ツアーも提供しています。かつての城の歴史と歴代の城主たちの話をドラマ形式に仕立て、その時代の衣装を身に着けたガイドが、部屋から部屋へと案内してくれます。

中世時代の重要な古城や要塞は他にも数多く残っています。ロソヤ川を眼下に一望できるブイトラゴ・デ・ロソヤの城壁に囲まれた町並みと古城は、防御施設として14世紀から15世に影響力の強かったメンドーサ家の要塞の役割を果たしていました。その城壁と城跡は現在でも姿をとどめ、見学も可能です。また、ドラマスタイルの見学ツアーや中世の市が開かれることもあります。カトリック女王イサベルが訪れたとされるサン・マルティン・デ・バルデイグレシアスのコラセラ城は保存状態も良好で、周辺の優れたワイナリー巡りのスタート地点として最適です。その他にも、マドリードにあるラ・アラメダ・デ・オスナのバラハス伯爵の要塞や、アロジョモリーノスにあるゴンサロ・チャコン城、チンチョンの貴族たちの権力の象徴と言われるチンチョン伯爵の城などは素晴らしい場所に位置し、オリジナルの姿を一部とどめています。その他にも、ビジャレホ・デ・サルバネスの主塔、バトレス城と主塔、ビジャビシオサ・デ・オドンにあるオドン城、タラマンカとトーレラグーナの城壁に囲まれた町並み、マドリードの監視塔網などが特筆に値します。



マンサナーレス・エル・レアルの古城

アクティブ・ツーリズムと自然

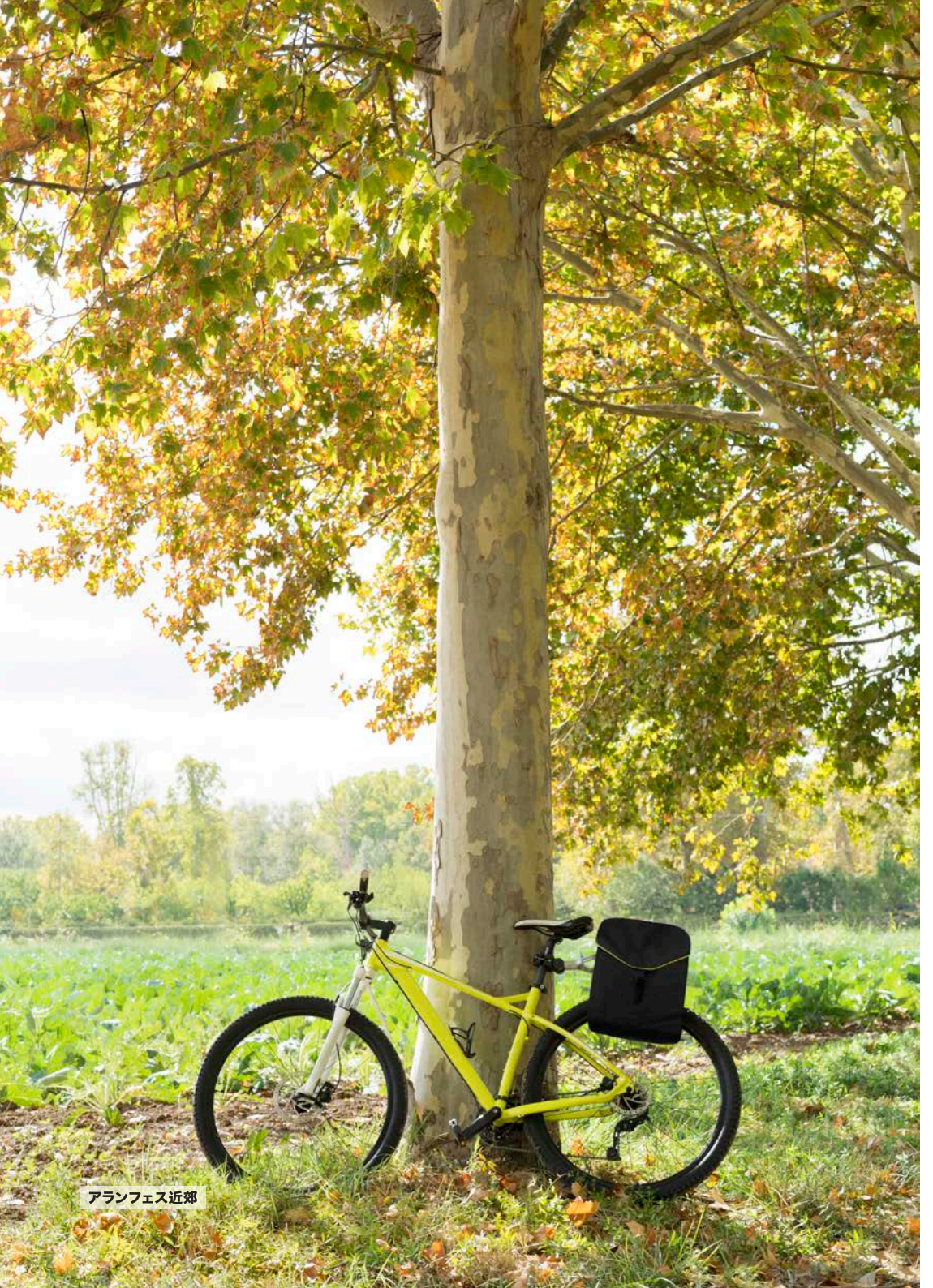
首都マドリードから1時間足らずで、手付かずの自然を楽しむことができます。恵まれた自然環境にあるマドリード州では、ハイキングで山の新鮮な空気を味わうシンプルな日帰り旅行から、サイクリングやスキーなどのアクティブ・スポーツ、そして半日から数日かけて田舎の宿泊施設で宿泊しながら巡る乗馬ルートまで、数えきれないほどの可能性を提供しています。

マドリード州は風景や生物多様性のコントラストに溢れ、環境保護に対する関心の高い自然空間も、グアダラマ山脈国立公園や、ユネスコの登録を受けた生物圏保護区、リンコン山脈、クエンカ・アルタ・デル・リオ・マンサナーレスなどのほか、州政府による保護地区もふんだんにあり、アウトドア・アクティビティに最適なコンディションが揃っています。モンテホのブナ林もつい最近、自然遺産に登録されました。

ウィンタースポーツ愛好家の方たちは、スキーはもちろん、スノーラケットでのトラバース、橇遊びなどをグアダラマ山脈で楽しむことができます。プエルト・デ・ナバセラダ・スキー場はスキーリフトと標識案内付きのゲレンデを完備、バルデスキーのゲレンデは20Km以上に及びます。もう少しリラックスしたアクティビティをお好みの方には、自然鉄道での旅がおすすめです。セルセディーリャとプエルト・デ・コトスの間を運行するラック式鉄道（山岳鉄道）からは、素晴らしい山の風景を堪能することができます。

ランニング愛好家の皆様は、トライアスロンやクロスカントリー競技、マラソン、ハーフマラソンのほか、12月31日に開催されるサン・シルベストレ・バジェカナ・マラソンに参加するチャンスもあります。また、ウォータースポーツ愛好家の皆様には、パドルサーフィンやウィンドサーフィンを始めとする水上アクティビティをサンフアン貯水池やエル・アタサール貯水池でお楽しみいただけます。

サッカーファンの皆様には、試合観戦はもちろんですが、レアル・マドリードやアトレティコ・デ・マドリードの見学施設も興味をそそられるものです。マドリードの名を冠するこの両チームのファンにとっては、スタジアムやトロフィー展示室は必見の場所と言えるでしょう。



アランフェス近郊

シクロツーリズム、CiclaMadrid

CiclaMadridは、各地の見どころや3ヵ所の世界自然遺産とひとつの国立公園を含むさまざまな観光資源を繋ぐ420Kmのルート網です。放射状に伸びる一連の自転車ルートでマドリードと結ばれており、そのうちの何本かはシクロツーリストたちのアクセスを改善するため、公共交通機関網でサポートされています。

CiclaMadridはまた、1,400Kmを超えるその他の数々のルートとも繋がっています。バリバリのスポーツマンタイプからスローカルチャー愛好家たち、友人たちのグループ、自然愛好家たちなど、さまざまなタイプの旅行者を想定したサイクリング可能なルートです。自然空間や風光明媚な場所、古城や要塞、伝統的な村、修道院、たぐいまれな風景、広場、ワイナリー、ブドウ畑などでのさまざまな体験を、自転車のスピードで味わうことができる優れた旅行手段です。ペダルを踏むごとに新しい発見がある、終わりのない小宇宙とも言えるでしょう。

さらに、www.ciclamadrid.esからダウンロード可能なアプリでは、個人やグループでルートを追跡できるほか、マドリードを自転車で楽しむためのお役立ち情報が満載です。

この最新プロジェクトと合わせ、マドリード州をじっくり知ることのできるオプションも各種ございます。マドリード市内では、BiciMADに数台ある電動自転車を使用して、サイクリングで市内を巡ることが可能です。また、自転車では、Anillo Verde Ciclistaと呼ばれるマドリード市をぐるっと周る65Kmの循環ルートを自転車で楽しむこともできます。休憩エリアや水飲み場、公共交通機関網のマップを完備した専用プラットフォームのルートです。

美味しい食べ物

伝統的な料理、国際色豊かな料理、前衛料理、フュージョン料理、オートキュイジーヌ、ミシュランの星付きレストラン…マドリード州にはあらゆる嗜好や予算に見合ったおいしいお料理が揃っています。マドリード州はスペインで現在進行中のグルメブームの象徴的存在です。ミシュランの星を冠したレストランや100年以上の老舗店、ガストロバーなどがクオリティと伝統、イノベーションをテーブルに供するため、手を取り合って取り組んでいます。飲食店の通常のオファーに加え、年間を通して一連のグルメイベントやコンクールも開催されています。

流行りのレストランでのおいしいお料理だったり、ミュージアムの庭園での軽食やお茶、通りや広場に面したカフェテラスに腰を下ろしてつまむタパスだったり、アフターワークバーや屋上テラスで夕陽を眺めながらのカクテルだったり、あるいはライブショーの休憩時間に驚くようなプチグルメ料理で心と体を潤したりと、マドリードで味わうおいしいものには数えきれないほどのオプションがあります。

また、マドリードの地元の生産品の幅広いオファーも、マドリードのグルメ文化成功の秘訣と言えるでしょう。マドリード産のワイン（ビーノス・デ・マドリードの原産地呼称指定ワイナリーが企画するアクティビティもあります）、カンポレアル産のオリーブの実、チンチョン産のアニス酒、グアダラマ山脈産の肉（地理的表示保護付き）、アランフェスのイチゴとアスパラガス、ビジャコネホス産のメロン、ビジャ・デル・プラド産の野菜、山のはちみつ、北部山脈の白いんげん豆、シープチーズなどが、そのハイライトに挙げられます。

コシード

マドリードならではの郷土料理をひとつ挙げるとすれば、3部に分けてサービングされるマドリード風コシード（煮込み料理）に勝るものはないでしょう。マドリード市内の老舗レストランでお召し上がりいただけますが、冬の間は「コシードの道」を形成する他のたくさんのレストランでも味わうことができ、煮込み料理好きには素通りできない場所となりそうです。

タパス

スペインの他の都市同様、マドリードでのタパス食べ歩きは、伝統と革新がひとつになった習慣と言えます。というのも、古くからのバーや伝統的なタパスに新しい場所やタパスがどんどん加わっていったのですが、最高の食材を用いてクオリティの高い料理を提供するというプロ意識を、誰もが忠実に守っているからです。タパス食べ歩きに出かけるのは、アフターワークやお友だちと会う時、平日でも週末でも、どんな時でもO.K.です。

マドリード州屈指のタパス食べ歩きの名所には、アルカラ・デ・エナーレスと、バルコニーに囲まれたマヨール広場にメソン（食堂）やレストランが軒を連ねるチンチョンが挙げられます。とはいえ、タパスは全国に普及しており、ほぼ毎週末、どこかの市町村でタパスフェアが開催されています。

グルメマーケット

伝統的な市場が、グルメ製品を購入して味わうことができるグルメの殿堂に様変わりした興味深い企画。マヨール広場に近いサン・ミゲル市場、チュエカ地区にあるサン・アントン市場とサン・イルデフォンソ市場、モンクロア市場、ラバピエス地区にある多文化色の濃いサンフェルナンド市場などが挙げられます。サラマンカ地区にはデ・ラ・パス市場と、グルメスペースのプラテア・マドリードがあります。

そんな市場のひとつを覗かずして、マドリードを訪れたとは言えません。各売り場が趣向を凝らしたグルメサジェスチョンを、ワインやビール、カクテルと一緒につまみながらその場の雰囲気を楽しみ、マドリっ子たちに倣って今この瞬間を思いきり味わいましょう！

チンチョンのマヨール広場

ショッピング

バラエティーに富んだ商品オファーの揃ったマドリードは、世界有数のショッピング天国だとか。商店や価格、購入設備を、ホテルや交通機関、文化アトラクションのオファーと共に評価する専門家報告書がそう結論付けたそうです。この地位を獲得するのに重要な役割を果たしたのは、疑いもなく自由のきく営業時間でしょう。マドリード市の数多くの商店やショッピングセンターは日祭日も開店し、ショッピング街はその他の都市とは比べものにないくらいの賑わいを見せています。

ショッピングエリア

マドリードにはどんな嗜好や予算にも合った商品が何でも揃っています。例えば、ラグジュアリー嗜好の方にはサラマンカ地区、モダンで自由放縦、前衛的なデザインをお好みの方にはサレサス地区、チュエカ地区、トリバル地区などが適しています。お手頃値段を探すなら、ソルとグランビアの間のマドリード中心部やモンクロア、ゴヤ周辺がおすすめです。ファッションとデザインで有名なマドリード州全域では、ファッション製品やアクセサリー、腕時計やジュエリー、レザー製品など、あらゆる商品を簡単に手に入れることができます。

サラマンカ地区（「ゴールデンエリア」の名で有名）では、高級ブランドのブティックやショッピングセンターで洋服やアクセサリー、フットウェアの最新トレンドを見ることができます。

ファッションショップやレストラン、カフェが建ち並ぶサレサス地区は、デザインショップに足を止めて入ったり、ぶらぶら歩きながらのウィンドーショッピングにぴったり。歴史の古い上品な建物を眺めると、古き良きヨーロッパにいるような気分になります。

チュエカ地区はまさにショッピング天国。ありとあらゆる種類のショップがフエンカラル通り、オルタレサ通りやその周辺に軒を連ねていますが、中でもファッションショップが多数を占めています。活気に満ちて開放的、国際色豊かなこの地区では、マドリっ子のひとりになって楽しめます。

グランビア近くの「トリバル」と呼ばれる「バジェスタの三角地帯」では、前衛の若手デザイナーたちがこの地区の老舗の店と肩を並べています。

中心部のショッピングストリート（アレナル、カレタス、マヨール、カルメン、プレシアードス）には、価格の手頃な国内外のチェーン店はもちろん、チェーンに属さないモダンなショップや、100年以上の歴史を持ち、時間が止まったように思われる老舗店も建ち並んでいます。

コンデ・ドゥケ広場。マドリード

マドリード市を取り巻くように多数ある年中無休のショッピングセンターは、ショッピングとお食事を一度に楽しめるのが利点です。ラグジュアリー商品をお手頃価格でお探しの方は、アウトレットにぜひお立ち寄りください。

一方、純然たるデザインをお好みの皆様は、マハダオンダのカラコル市場やマタデロ・マドリードのデザインマーケット、あるいは独立系のデザイン専門店のノマダ・マーケットをお見逃しなく。

ショッピング三昧の午前中や午後は、おなじみのお店や新しくオープンしたカフェやカフェテラスで休憩しながらスイーツを楽しむ…そんなひと時なしには完璧とは言えません。カフェやカフェテラスでのドリンクやランチ、ディナーは、ショッピングの締めくくりにぴったりです。

青空市場

そしてもちろん、青空市場のこともご紹介しなくては！マドリード州全域で盛んな青空市場は、通常、屋外の公共の場所に特定の日に設置され、食料品、衣料品、家財道具、鉢植え、装身具など、ありとあらゆるものが売りに出されます。おなじみの場所で、バラエティに富んだ商品が盛りだくさんに用意されている上、従来の商店より安価で手に入るとあって、いつの時代も大衆の大きな人気を誇ってきました。

マドリード随一の青空市場といえば、中世に始まったとされ、マドリード市を象徴するラストロ。毎週日曜日、カスコロ広場と周辺で開催されるラストロでは、たくさんのスタンドで新旧の商品や中古品が販売されています。ガレリアス・ピケルのアンティークショップにもご注目。

衣料品や食料品の伝統的な青空市場のほかにも、他の商品を専門に扱う青空市場も存在します。モヤノ坂の古本市には、珠玉の文学作品が並んでいます。フェリーペII通りの市はヒッピー風のスタンドが特徴。マヨール広場は伝統的な切手市場で有名、鉄道博物館のモーター市、コンデ・デ・バラハス広場では優れた絵画作品を手に入れられます。

マドリード州の市町村で開催される青空市場も忘れてはなりません。オジョス・デ・マンサナーレスのエコ製品と民芸品の市、ナバセラダのアンティーク市、アルカラ・デ・エナーレスとマンサナーレス・エル・レアル、ブイトラゴ・デル・ロソヤの中世の市などが有名です。

免税店。EU圏内にご在住でない方たちは、たくさんある免税店でお買い物すると払い戻しを受けられます。税金の払い戻しに必要な最低購入金額は90.15ユーロです。

ご帰国間際にお土産の買い忘れに気づいたり、荷物の重量が気になる方は、マドリード-バラハス・アドルフォ・スアレス空港にも免税店がございます。

マドリードでスペイン語を学ぶ

外国人向けスペイン語教育を専門とする教育機関が充実したマドリード州では、スペイン語留学生をどの州よりも多く迎えています。

さまざまな国籍の人々が一同に会するオープンな国際都市マドリード市には、セルバンテス文化センターや国立図書館、スペイン王立アカデミーを始めとするスペイン語の重要な施設と、文化と娯楽の幅広いオファーが揃っています。

セルバンテス文化センターは、世界でのスペイン語教育を目的とした機関で、スペイン語学習のコースばかりでなく、スペイン文化の研究を目的とした研修も実施されています。

公立大学でもスペイン語教育は行われていますが、質の高いスペイン語語学学校が加盟している外国人向けスペイン語学校連盟（FEDELE） も忘れてはなりません。

この、いわゆる語学ツーリズムにとって大きな魅力を放っているのがアルカラ・デ・エナーレスです。街の歴史と大学、ミゲル・デ・セルバンテスの出生地であることがひとつ、そしてセルバンテス文化センターの講師養成機関の本部が置かれ、外国人向けスペイン語の公立語学学校を多数受け入れていることがもうひとつの理由です。

語学学習が目的の旅行者にせよ、各国の留学生にせよ、教育オファーの重要性は言うまでもありませんが、さらに重要なのは、その都市が提供する全般的なオファーとそれが与える印象です。この面において、マドリード州はあらゆる期待に副えることができます。

ビジネスと会議

マドリード州は、ビジネスツーリズムの受け皿としてEU内外から高く評価されています。これは別段、不思議なことではありません。クオリティの高い各種ホテルのオファー、会議開催のための素晴らしいインフラ設備、近代的な交通機関網のほか、ゴルフを始めとする娯楽のオファーも幅広く揃っているからです。さらに、マドリードと首都圏は、スペイン内外の数多くの企業の投資を惹きつける魅力的な場所としての地位を確立しています。

マドリード州は会議の開催回数と参加人数において、国際会議協会（ICCA)の世界ランキングの上位を占めています。

マドリード州の原動力のひとつは、マドリード見本市会場(IFEMA)です。100万平米の敷地面積は、各種の見本市やアクティビティの特定のニーズに合わせて調整可能で、3万以上の企業が参加し、年間来場者数は何百万人にも及びます。12ヵ所のパビリオン、会議場と各種ホールのほか、サービスと恵まれた立地条件を提供するIFEMAは、ビジネスの場として非の打ちどころがありません。

IFEMAで開催される見本市の中でも特に重要なものに、FITUR（世界で最も重要な国際観光フェア）、ARCO(国際コンテンポラリーアートフェア)、マドリード・ファッションウィークが挙げられますが、マドリードの見本市カレンダーには、それ以外にもたくさんの見本市が目白押しに並んでいます。

ビジネスの中心を占めるマドリード市ばかりでなく、マドリード州の数多くの市町村も、宿泊施設やサービス施設、ビジネスイベントや会議や集会の開催を後押しする、魅力的なリソースを完備しています。

乗馬。ビジャビシオサ・デ・オドン

イチゴ列車。アランフェス

家族旅行

マドリードはご家族とのご旅行に最適な場所のひとつです。お子さま向けのアクティビティはもちろん、ご家族で楽しめるアクティビティもふんだんに用意されています。たとえば、鉄道博物館や自然科学博物館、ろう人形館はあらゆる年齢のお子さまにとってとても魅力的な場所です。一方で、美術館通りの美術館でも児童向けプログラムや家族向けのワークショップ、小さいお子さま対応の見学ツアーなど、親子が一緒に満喫できるサービスが充実しています。マドリード・プラネタリウムでの宇宙に目が開かれる体験や、ご家族での鑑賞を想定した演劇作品の鑑賞という魅力的なオファーもいくつもあります。

マドリード州ではシンプルなルートのハイキングや、自然の中やグリーン・レーン、グリーン・ルート、自然歩道などでのサイクリングも可能です。その他にも乗馬や、ジップラインや木と木の間を繋ぐつり橋が満載のレクリエーションパークを楽しんだり、マドリード動物園・水族館、ファウニア、サファリ・マドリードなどでは、世界中からやって来た動物たちに会うこともできます。レティーロ公園、エル・カプリチョ公園、フアン・カルロス1世公園、カサ・デ・カンポ、マドリード・リオ、トレホン・デ・アルドス・ヨーロッパ公園、ボスケ・エンカンタード・デ・サン・マルティン・デ・バルデイグレシアスなど、マドリードにたくさんある公園もぜひ訪れてみてください。

芸術や文化、自然といったお約束のオファーのほかにも、遊園地やワーナー・パーク、ミクロポリスなどの巨大テーマパーク、夏のアクアパークなど、必見スポットはまだまだあります。

LGTBI

マドリード州はLGTBIコミュニティが堂々と存在する場所のひとつです。マドリード市内のチュエカ地区を始めとするエリアはゲイコミュニティの象徴的な場所となり、レインボーフラッグがあちこちにはためき、ホモセクシャル・コミュニティはもちろん、彼らを尊重して受け入れる人々を認める雰囲気や、彼ら専用のオファーが揃っています。

マドリードがワールドプライド2017の開催都市に選ばれたことからも分かるように、文化、芸術、スポーツ、エンターテインメントに関連するLGTBIのイベントが盛りだくさんに、年間を通して開催されています。マドリード・レズビアン・ゲイ・トランセクシャル映画フェスティバル、プライド・マドリード、ウィ・パーティやゲイデー・マドリードなどのフェスティバルに加え、LGTBIコミュニティ専用のレストランやホテル、ショーもあり、この領域におけるマドリード州の評判を高めています。

便利情報

マドリード州内の観光局ネットワーク

マドリード州の観光局ネットワークは、空港や鉄道駅、マドリード中心部など、マドリード市によって戦略的に配置された独自の観光局と、州全域に設置されたその他の観光局で構成されています。

いずれの観光局も、マドリード州とその市町村に到着した観光客を温かくお迎えし、質の高い情報を提供して、マドリード州が完備するバラエティに富んだ観光資源をご案内することを第一の目標に掲げています。

安全性に関するひと言…

マドリード市は世界有数の安全な都市のひとつです。ザ・エコノミスト・インテリジェンス・ユニットによって作成されたSafe Cities Index 2017（世界の都市安全性指数ランキング2017）の12位を占めているのもうなずけることです。安全性に対する努力は、公共交通機関網に設置された何千という監視カメラはもちろん、警備員たちの姿にも認められます。地下鉄駅でリアルタイムで撮影される映像は、緊急事態やその他の事態に対応する指揮所のほか、マドリード市内全域の駅に配置された指揮所からも追跡可能です。

そのかたわら、国家警察は数か国語による外国人旅行者対応サービス(SATE)を完備し、警察のサポートを必要とする状況に置かれた観光客の対応に努めています。クレジットカードの取り消し、大使館や領事館への連絡、警察での書類手続きのサポートを始めとする各種のサービスを提供しています。

写真:
© David Ruiz Polo/ 観光部写真アーカイブ。マドリード州。

Depósito Legal: M-29726-2019。
持続可能な森林資源の紙を使用。

マドリード州

www.turismomadrid.es